

《カリキュラム・マネジメント評価表》

学校番号	高等学校名	課程	指定事業等(国・県ほか)
81	県立水海道第一高等学校	全日制	特になし

重点度	項目	現状分析と課題[R4]	目標【GOAL】	取組【PLAN】⇒実施状況【DO】	検証【CHECK】 成果	対応【ACTION】 次年度【R5】への課題と取組の方向性
2	学習指導 (教育課程)	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 課外や添削指導の指導体制を常に見直し、成績の底上げを行っている。 家庭学習時間1・2年次3時間以上、3年次5時間以上を目標とし、達成するよう生徒のサポートを行っている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年間、6年間を見通した指導方法、指導体制、教員間の連携等の改善をする。 学習意欲を高める工夫をし、主体的な自学自習、発展学習をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学びが実現できるよう授業の見直しをし、ICTの活用推進により「わかる授業」「主体的な授業」を展開する。 生徒各自が興味・関心・進路希望等に応じた科目設定を行い、数学科・英語科および卒業設定科目においては少人数授業や習熟度別授業を展開し、きめ細かな指導を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT活用推進の取組⇒各授業や行事での電子黒板、Meet、タブレット等の活用が図られている。 少人数授業、習熟度別授業の取組⇒数学、英語を中心とした展開がされている。授業の他に課外でも習熟度別学習が展開されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学びの基礎診断「スタディサポート」 「4月実施から9月実施で、国数英のGTZが上昇した」1年次 全体B1→A3 「ベネッセ総合学力模試で、7月実施から11月実施で、偏差値が上昇した」2年次B2以上24.5人 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に学習に向かうような仕掛けづくり 「学びの基礎診断」の有効利用 <p>【取組の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 主体的な学習に向けるため、課外や課題の選択を増やす。 ICTやアクティブラーニングを取り入れた授業展開を工夫する。
1	進路指導 キャリア教育	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 難関国立大、難関私立大の受験にも対応できる学力を身に付けさせ、進路目標の達成を図っている。 各種検定試験の実施、大学入試関連の情報収集、各種進路講演会の実施などを行っている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 難関国立大、難関私立大への進路目標の達成のため、見合った学力を身に付ける工夫をする。 総合的な探究の時間の組織的運営 	<ul style="list-style-type: none"> 平日・長期休業中における組織的・計画的な課外およびPTA主催の土曜課外を実施する。 1年次から進路検討会と学力分析会を実施し、3年間を見据えた進路・教科指導をする。 卒業時生徒の進路実現率 95% 	<ul style="list-style-type: none"> 各種課外の取組⇒平日の課外、長期休業中の課外、土曜課外の実施 進路検討会、学力分析会の取組⇒各年次で外部の専門家を招いて検討会や分析会を行い、生徒の指導に生かす取組をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種課外の実施日数 土曜課外 10日(3年次3日)、平常課外 ほぼ毎日 進路検討会、講演会、分析会の実施回数 1年次 8回、2年次 7回、3年次 6回 卒業時生徒の進路実現率 約90% 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が学校に滞在する時間が長くなることで、自由度が失われている。 大学受験の方法が変わりつつあるため、総合的な力を育む体験・経験を増やす必要がある。 <p>【取組の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間を充実させるとともに、生徒の思考、創造力を育む。 生徒の進路の幅を広げるため、社会人とのふれあいの場を増やす。
	生徒指導	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間を通した継続的な個別面談を通して生徒理解を図り、基本的生活習慣の確立に努めている。 社会人として必要な考え方やマナーを身に付けさせるため、成年年齢への意識改革を行っている。 登校指導を通して、遅刻数の減少を図っている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校生活を中心に家庭と連携し、「海高ブランド」の意識高揚を図ることで基本的生活習慣を確立させる。 校内外の安心安全な生活環境を創造する。 	<ul style="list-style-type: none"> 登校指導や授業等での意識付けを通して基本的生活習慣の確立を図り、海高生としての矜持である「海高ブランド」意識の醸成と品位ある行動を確立させる。 登下校時の事故件数 0件 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的生活習慣の確立への取組⇒「海高スタンダード」を意識させ、本高生としてのプライドをもった生徒像を描かせ、生活習慣の確立を目指している。 無事故への取組⇒電子掲示板や生徒指導部長の交通安全講話などを通し、無事故を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 登下校指導の実施 2日 事故件数 5件(いずれも軽微なもの) 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自転車の乗り方や歩道の歩き方、電車内での過ごし方など、モラルに関する指導が必要である。 個別面談、三者面談を行うため、場所の確保が問題である。 <p>【取組の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒指導部の啓発資料や、呼びかけ、生徒同士での話し合いなどを通し、モラルの醸成を図る。 面談場所やカウンセリングの場所を確保するため、校内の教室や準備室等の見直しを行う。
3	特別活動 (部活動は含まない)	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリアや各種委員会活動を通して生徒の自主性を育てている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> HR活動・生徒会活動・各種委員会を充実させ、生徒の自主性を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> キャリア・パスポートの積極的な活用をしたホームルーム活動、学校行事を通して、心身の健康づくりや体力をづくりを実践し、生涯にわたるスポーツや文化活動に親しむ能力を育成する。 キャリア・パスポートの活用(Class)状況の増加 	<ul style="list-style-type: none"> 心身の健康づくり、体力づくりへの取組⇒体育科作成による体力アップ推進プランに従った体力づくり。養護教諭による「こころの授業」(7月)の実施 キャリア・パスポートの活用への取組⇒スマホやClassiを用いたキャリアパスポートの実施。行事ごとの取組状況の記載、振り返りなどの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ピアカウンセリング、赤ちやんふれあい体験 Classiを活用したキャリア・パスポートへの取組 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリア・パスポートの記入や振り返りなど確実に記録する習慣を付ける。 生徒の主体的な行事運営を行う。 <p>【取組の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒評議委員会、各種委員会活動 亀陵祭(文化祭)、学校説明会、定期戦等 生徒主体の行事達成率 90%
	組織運営 (働き方改革)	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習および進路指導に係る教員の負担軽減を図るため、効率的な指導体制を考慮する必要がある。 各自が定時退勤日や適正な退勤時間の設定を行い、時間外勤務の削減を行う必要がある。 地域社会や保護者の協力を得ながら、学校負担の軽減を目指す必要がある。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員に頼らずに生徒自身が自律的に進路目標を設定し、達成できるよう仕向け、教員の負担軽減を図る。 保護者と学校の協力体制の充実を目指し、学校に負担が偏らない仕組みを構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス遵守に則った指導を心掛け、教科指導をはじめ特別活動や学校行事指導などにおいて生徒の健全な育成を実現する。 教職員の不祥事件数 0件 	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス遵守への取組⇒職員朝会や職員会議での呼びかけ。コンプライアンス通信による呼びかけ。 教職員の不祥事件数 0件 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の不祥事件数 0件 業務削減への取組 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の生徒に対する言動や態度など、注意を図る。 業務の平準化並びに勤務時間を超過する業務の削減が必要である。 <p>【取組の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 時間外勤務時間月80時間以上の教員数 平均0人、45時間以上の教員数 平均10人 昨年比 -10% 時差出勤の利用 延19人 昨年比 95%
	教育環境 整備	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT教育環境を整え、授業や学校行事への活用を図っている。 教室設置のデジタルサイネージの活用を図っている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 余剰教室の少なさ オンライン会議等への対応環境整備 廊下や階段等の危険物の除去 	<ul style="list-style-type: none"> ICT活用において「コンピュータやタブレットを活用し、学びの進め方を工夫している教員」の割合 80% 	<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用状況への取組⇒ほとんどの教員が授業中の電子黒板利用をしている。生徒がタブレットを使用して、発表や討論をする機会も設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT活用において「コンピュータやタブレットを活用し、学びの進め方を工夫している教員」の割合 58% 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> オンラインやプロジェクトを利用した投影、スライドの利用などは十分行われている。生徒自身がICTを利用して、発表や話し合い、資料作成などを行う機会が少ない。 <p>【取組の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタルサイネージの活用 校内環境整備 ICTを効果的に利用した授業の工夫や研修会の実施
	地域との 連携 (保護者、地域住民等)	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内外のボランティア活動に積極的に取り組み、地域社会との連携や貢献に取り組んでいる。 開かれた学校づくりのため、広報活動の工夫を図り保護者や社会に向け発信している。 保護者は本校教育の理解があり、積極的な学校行事への参加や協力がある。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域行事へのボランティア活動を通じて、地域貢献への意識や社会参加への意欲を醸成する。 広報活動と情報公開をすすめ、開かれた学校づくりのため本校教育活動への理解と協力を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校説明会、ホームページの定期的な更新および広報誌等を通して、地域社会や保護者に積極的に学校生活の様子を発信する。 学校ホームページの更新 月3回以上 	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページの更新への取組⇒行事や取組について、更新をまめに行い、学校生活の様子がわかるよう発信している。 学校ホームページの更新 月5回以上 	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページの更新 月平均3回 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各年次や部活動などの活動が、ホームページアップにつながらない。 ボランティア参加率が少ない。 <p>【取組の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームページの取材や原稿作成の負担軽減 地域と連携したボランティアの募集を積極的に行ったり、個人や団体での参加を促す。
	保健管理 安全管理	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 精神的なケアを必要とする生徒に対し、校内を組織化し外部機関との連携を図りながら対応に当たっている。 日常の健康チェック体制、疾病予防を行っている。 安全点検を日常的に行っている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> メンタルヘルスクアを充実させるため、支援に対する理解を促進する。 生徒の自己健康管理能力や安全への意識向上が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談体制を充実させ専門家との積極的・効果的な活用と関係機関との連携に努める。 外部機関、SC、SSWの利用によるチーム学校の構築 	<ul style="list-style-type: none"> 外部機関の活用への取組⇒伊奈特別支援学校の巡回指導利用、SC、SSWによる研修会の実施 SC・SSWの活用への取組⇒SCの積極的利用。年間30回以上の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 外部機関の活用 3件 SC・SSWの活用回数 30回 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> カウンセリングを必要としている生徒の増加 中高の連携を見据えた各種マニュアルの見直し <p>【取組の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校保健計画、学校安全計画の見直し 危機管理マニュアルの見直し 保護者アンケート「将来を担う人材を育成している」大体そう思う以上 74.5%
	研修 (資質向上の取組)	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 相互授業参観の実施による授業改善 職員研修会の実施 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 相互授業参観への参加率の低さ 生徒による授業評価の活用率 	<ul style="list-style-type: none"> 学校保健計画や学校安全計画の見直しを行い、中学からの体系的指導を行う。 危機管理マニュアルの見直しを行う。 生徒の安全対応能力、自己健康管理能力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校保健計画、学校安全計画の見直し 危機管理マニュアルの見直しの実施 生徒の安全対応能力、健康管理能力への取組⇒避難訓練、新型コロナウイルス対応、熱中症対応等、学校事故や健康管理、予防を意識した生活の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 学校保健計画、学校安全計画の見直し 危機管理マニュアルの見直し 保護者アンケート「将来を担う人材を育成している」大体そう思う以上 74.5% 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業評価アンケートの実施方法や実施時期の見直し 職員研修会の参加率のアップ <p>【取組の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科の時期をずらしたり、授業中にとる時間を工夫したりして授業評価アンケートを年間2回とる。 職員のニーズに合わせた研修会を実施する。
	情報提供 (広報、生徒募集)	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業公開、学校説明会および定期的なホームページの更新を行い、本校教育の理解の促進を図っている。 学校評価結果の公表 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 発信方法が形骸化しており、目新しさ、わかりやすさが乏しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校説明会でのスクリーンムービーの活用 学校案内チラシ、ポスターの一新 学校評価結果などの公表 	<ul style="list-style-type: none"> 学校説明会の取組⇒学校紹介動画の作成、公開。 学校案内チラシ、ポスターへの取組⇒近隣中学校への案内の実施 学校評価等の公表への取組⇒保護者・生徒向け学校生活アンケート結果の公表予定 	<ul style="list-style-type: none"> 学校説明会出席者数 1,372人 学校案内チラシ、ポスター 学校評価等の公表 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校説明会や学校公開の運営方法や内容の見直し 学校パンフレットの内容の見直し <p>【取組の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校パンフレットの取組⇒内容の見直しを行い、よりわかりやすさを意識して作成した。 広報における生徒の活用への取組⇒地域や母校中学校での交流会等の参加